１５【 滋賀県立八幡商業高等学校 】

滋賀県立八幡商業高等学校近江尚商会（同窓会）

八幡商業高等学校校歌

土井晩翠　作詞
東京音楽学校　作曲

一、漣清き鳰の海　その八景の岸近く
敷ける教の庭の中　望みあふるる青春の
健児日毎のいそしみは　邦と民との富の道

二、鵬の翼の延びざりし　鎖国の世にも大八洲
その隅かけて市とせし　父祖にな耻ぢぞ東海の
潮一度舟乗せて　四海にいたる今の時

三、印度の珠玉アラビアの　香も集めん南洋の
珊瑚琥珀も欧の西　送らん道や幾万里
潮と共に舟を駆る　貿易風の名もよしや

四、大塊ひとつ日月の　光り遍く照るきみは
自然と人と相待ちて　万の宝生むところ
皆わが領と心して　探れ扶桑の国の富

五、扶桑の国の富斯くと　宣らん健児の志
養ふ処漣の　近江の海の岸近き
教の庭に光栄の　景とこしへに照らしめよ

滋賀県立八幡商業高等学校は，近江商人発祥の地のひとつである近江八幡市にある。明治１９年（1886 年）に滋賀県商業学校として創立され，創立１３２周年を迎える伝統校である。かつて大宅壮一氏が「近江商人の士官学校」と称し，卒業生は国内経済界は勿論，各界や海外で活躍し，多くの著名人を輩出，これまでに約 23,000 人の卒業生を輩出している。

現在，学年６クラス（商業科４，国際経済科１，情報処理科１）を配する中規模校である。現在においても，本校創立の精神や意義等が継承され，先進的な取組を実施している。なかでも特徴的な取組が，「近江商人再生プロジェクト」である。現代，次代の「近江商人」を輩出していくために，このプロジェクトを立ち上げた。近江商人の精神や商法（手法）等を実践的に体得し，経済・商業人として，将来必要となる企画力，開発力，計画力，実践力等を身に付け，将来，全国ひいては世界で活躍する人材となってほしいというのが目的である。その他にも，現在，商業教育の活性化に向けたさまざまな取組を実施している。

最後に，商業のあるべき道や近江商人の精神などが歌詞のなかに込められている校歌は，明治４０年１１月１日に制定され，幾多の歴史の変遷があったなかでも，変更されず，現在も在校生と同窓生が一同に唱歌できる自慢の校歌である。